

共生のきずなを求めて!

NPO 現代座

2017 年 8 月 1 日 発行
(通巻 474 号)

現代座レポート No. 71

- ・平右衛門没後 250 年記念公演、無事終了 (1)
- ・川崎平右衛門顕彰会・研究会設立 (2)
- ・劇作を通して見えた現代に生きる川崎平右衛門 (3)
- ・「遠い空の下の故郷」大田市公演／昭和世代と共に生きて (4)
- ・草笛コンサート／よみがえる『星と波と風と』 (5)
- ・早稲田ラジオスクールは「教育文化経営学院」となりました (6)
- ・3F ホールの催し／地下ホールの催し (7)
- ・お知らせ 会員入会、継続、寄付 (8)

NPO 現代座ホームページ <http://www.gendaiza.org/>

特定非営利活動法人 NPO 現代座 発行責任者：木村快

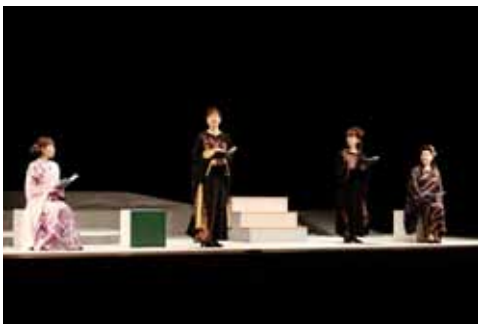
〒184-0003 東京都小金井市緑町 5 丁目 13 番 24 号 TEL 042-381-5165 (代) FAX042-381-6987

平右衛門没後 250 年記念公演 「武蔵野の歌が聞こえる」

無事終了しました



【写真上】 最終公演のカーテンコール。
【写真下】 平野啓子と仲間たちの語り
「川崎平右衛門の物語」の舞台



合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」は 2014 年から毎年 9 月に現代座ホールで公演してきました。今年はこの芝居の主人公「川崎平右衛門」の没後 250 年にあたり、府中市のふるさとホールは会場がす。平右衛門の生まれた府中市では、記念事業として「川崎平右衛門ゆかりのまち交流事業」を開催、その中心企画として「武蔵野の歌が聞こえる」を 3 回上演しました。

5 月 20 日の朝は小中学生と保護者を対象にした招待公演、午後の一般公演は 2 部形式の特別公演で、1 部は「平野啓子と仲間たち」による「川崎平右衛門の物語」、2 部が「武蔵野の歌が聞こえる」でした。そして 21 日に関係者のための招待公演が行われました。

大石学先生は前々回の現代座レポート 69 号に『武蔵野の歌が聞こえる』をめぐって『史実(ヒストリー)の一回性と物語(ストーリー)の無制限性』という論文を寄稿してくださいました。今回の公演も観てくださって励ましの言葉をかけてくださいました。

平右衛門研究プロジェクトも 7 年目ですが、おかげさまでこの交流事業の中で「川崎平右衛門顕彰会・研究会」も設立され(2 ページ参照)、思いがけない仕事になりました。

21 日の午後は「歴史講演会とトークショー」が行われ、東京学芸大学副学長の大石学先生の講演と平右衛門ゆかりの全国 6 自治体からの報告が行われました。

川崎平右衛門顕彰会・研究会ができました

木谷道宣



きたに・みちのぶ
木谷ウオーキング研究所代表理事。国際的なウオーキング指導者として知られる。江戸末期に日本地図を作成した伊能忠敬の足跡を辿るウオーキングで注目を浴びた。

5月20日、府中の森芸術劇場・ふるさとホールで、現代座の皆様による合唱劇公演の興奮がさめやらぬ中で、『川崎平右衛門顕彰会・研究会』が発足しました。

平成26(2014)年から3年間にわたって毎年9月に現代座会館で上演されてきた合唱劇「武蔵野の歌が聞こえる」武蔵野を協同の大地に変えた川崎平右衛門―が基盤となつて、ついに川崎平右衛門を恒久的に研究・発表し、顕彰してゆく会が発足したのです。

川崎平右衛門、伊能忠敬、二宮尊徳……、江戸時代に50年おきに名字帯刀を許された農民出身の偉人がいますが、なぜか平右衛門の功績はあとの二人ほどは知られていません。代官になり最後は幕府の勘定吟味役という高官になったことも影響しているのかもしれないが、各地に開墾した新田の農民に慕われてきたことは半端じゃありません。

すなわち、明和4(1767)年6月の訃報を聞いた美濃の国、現瑞穂市の村人たちは直ちに江戸へ弔問に立ち、佩用の刀一振りを持って帰り、それを御霊代として興禅寺に墓を建立、250年間毎年法要を重ねてこられました。また同市には、没後3年目と147年目の大正3年に川崎神社が建立されています。

石見の国、現大田市には「報恩」の供養墓が建てられ、没後28年の寛政7(1795)年には小金井市の真蔵院に供養塔が、国分寺市の観音寺に謝恩塔が建立されました。更に31年後の寛政10(1798)年には埼玉県鶴ヶ島に武蔵野御救氏神・川崎大明神石祠が、

翌年には国分寺市の妙法寺に実に74新田の農民の掘金によって立派な謝恩塔が建立されました。そして没後86年目のペリーがやってきた嘉永6(1853)年には埼玉県坂戸市に川崎大明神碑が建立されました。生まれ故郷の府中市には2009年にブロンズ像が、2015年には小金井の玉川上水に「平右衛門橋」がかりました。こうした長年にわたる顕彰の歩みをとどめるとともに、協同の力による畑養料や明治まで続いた食料備蓄制度「溜雑穀」などの農民救済策、さらに優れた治水の研究などの深化を期待いたします。

顕彰会の会長にはJA出身の山田俊男参議院議員、研究会の会長には大石学東京学芸大学副学長・教授が就任され、事務局は現代座に置かれました。皆さんどうか会員(年会費3000円)になっていただいで、共に学び顕彰することで、混迷を続ける現在の社会状況を打破する大きな光を投げかけましょう。

第1回川崎平右衛門研究会のお知らせ

日時：2017年11月23日(祝) 10時~16時

場所：府中市郷土の森博物館会議室

参加費：3000円(入館料、資料費、弁当を含む)

研究会長大石学教授の講演、岐阜県瑞穂市の棚橋市長と

石見銀山資料館仲野館長の記念講演等を予定

東京学芸大学放課後児童クラブ

児童で「川崎平右衛門」の合唱劇を

東京学芸大学では放課後児童クラブ「森の子ども教室」をやっています。これは「遊び」を核として、分野の枠組みを超えたプログラムを実施することで、学校教育とは違ったアプローチで「様々な学びの体験をしよう」という取り組みです。

今年「地域の子どもを、地域で育てる」をテーマに、子どもたちが地域で多様な大人たちと関わりなが

ら色々な体験を通して学んでいくことを目指して、いくつかのプログラムを行います。そのひとつとして、NPO現代座が続けてきた合唱構成劇「武蔵野の歌が聞こえる」を子どもたちで上演したいということになりました。

ちょうど現代座の木下美智子が長野市に滞在中でしたが、急ぐからということ、放課後児童クラブ「森の子ども教室」のスタッフがわざわざ長野まで訪ねて来られました。スタッフの一人は「武蔵野の歌が聞こえる」でピアノ演奏をされている新井さんでした。「えー、新井さんこんな活動もしてたの!」とびっくりしながら話しを聞きました。

「平右衛門」の合唱と劇で子どもたちが歌ったり芝居をするのを楽しんで発表すること。そして「平右衛門」のやったことを知って地域の歴史を学ぶこと。それをできれば継続的にやっていきたいというお話しでした。

子どもたちが「みんなで心をひとつにする体験」をすること、それをきちんと人に伝えていくこと。その活動を子どもたちと、学芸大の学生さんと地域の大人たちがいっしょに関わり合いながらやっていきたい。

学芸大附属小学校の子どもだけでなく地域の小学校の子どもにも呼びかけるそうです。11月3日に学芸大の学園祭で発表することを、最初の目的として毎週木曜日に学芸大で稽古していくことになりました。

子どもたちの生き生きとした舞台ができるように、現代座のメンバーもできるだけ協力しよう」と話し合っています。

(木下美智子)



左からスタッフ責任者の三宅基之さん、八田珠穂さん、新井紀子さん。(長野市で)

劇作を通して見えた

現代に生きる川崎平右衛門

木村快

川崎平右衛門顕彰会・研究会二コースの創刊号に次のような文章を寄稿しました。

現代は私たちの暮らしの在り方を全面的に考え直すなければならぬ時代である。

大災害の続いた江戸中期、享保の改革によって「武蔵野新田」の開発、つまり荒地の開拓が進められるが、10年以上の歳月をかけながら挫折に直面する。このとき開発責任者大岡忠相に乞われ、在野の農民指導者、平右衛門が指導を継承し、ついに自立した協同の村を80ヶ村以上実現させたという。

劇中における開拓生活の表現は、平右衛門をどのようなイメージの人物として描くかで決まる。ある研究者の表現では、平右衛門は商人的利殖の才にたけた男で、「貯める」ことで豊かになろうとする農民の力を生かした人物とされていた。だが、開拓に行き詰まり、廃墟となった村に取り残された百姓たちが、貯める欲望だけであれだけの大事業に立ち向かえるだろうか。

私は「戦後緊急開拓事業」で山間僻地に放り込まれた開拓民の歴史や、帰国の道を閉ざされたブラジル移民が原始林開拓で生き残りをかけた歴史を取材したことがある。目先の利欲で結集した開拓は、ひとたび困難に直面すると空中分解するのが常である。

成功した開拓地に共通するのは、強い者も弱い者も一体となって生き抜く、共生能力の高さを持っていることである。そこには困難に直面したときにはまず弱い者を守ることで結束を固め、みんなで乗り越えさせるリーダーが存在している。

平右衛門は多摩川洪水の危険に対処する村で育ち、



少年時代に二度にわたって大震災を経験している。その人間形成の原点には、火急の場合、互いに助け合い、集団で乗り越える協同の姿が心に刻み込まれていたはずである。

水利技術の専門家でもある平右衛門は数学的知識を駆使して協同のシステムを生み出し、百姓たちに助け合いの喜びを実感させた人物だったのではないか。享保改革で苦闘する将軍吉宗や大岡忠相が平右衛門を全面的に信頼したのも、目先の利益に惑わされず、民を自立させるリーダーと見たからだと思ふ。自然と闘った江戸期の歴史は、今改めて共生の力を伝えていく。

◆須田稔先生との再会



須田稔先生（立命館大学名誉教授）が「平右衛門没後250年記念公演」にわざわざ京都からおいでになり、うれしい再会となりました。先生は1990年の『もくれんのうた』京都公演の際、実行委員長を引き受けて下さったことからおつきあいでいただいています。

90年には立命館大学の論文集に「文化運動の理念と実践の課題」で木村快の劇場創造論を紹介して下さい、94年には演劇界における現代座の活動の特徴を学術的に分析され、『響きあう市民文化運動—自己実現と協同の生き方』（近代文芸社刊）を発表されています。

公演終了後、現代座会館での公演打ち上げ会に立ち寄っていただき、楽しい交流のひとときを過ごされました。

◆森武麿先生来訪



森武麿先生（一橋大学名誉教授）は昭和史の研究者。神奈川県立本常民文化研究所で満蒙開拓と戦後の緊急開拓の実情を調査されています。昨年、ブラジル移民調査でレジスト口植民地、アリアンサ移住地に赴かれ、そこで木村快の仕事を知ったと訪ねてくれました。調査に苦労されているようで、お互いに直面している問題意識で話が弾みました。現在は福島原発の隣接地葛尾村に残る満州引揚者集落を調査されているとのこと。もしお役に立つなら、1980年代に木村が北海道の戦後引揚者の開拓部落を調査して制作した『風は故郷へ』の舞台録画と調査資料をお渡ししました。

今回の『武蔵野の歌が聞こえる』もご夫婦で観劇され、近々、またおいで下さるとのこと。

◆葛谷栄一さんの「快塾」



現代座会館では葛谷栄一さんが木村快を囲んでの協同についての勉強会、通称「快塾」を開いています。葛谷さんは「農的社會デザイン研究所」の代表。地域農業の振興、国民皆農の道を目指す専門家です。農業に関心を持つ活動家たちが集まって、農業者の側からの実情を自由に話し合っています。そして一杯傾けながら、「劇場」という人間の奥深い体験を通して農業を振り返り、ここはやはり新しい芝居を創らねばと氣勢を上げています。

今回は「キューバの農業協同について」。葛谷さんと夫人政子さん、伊那グリーンファームの小林史麿氏は、カストロ元大統領が没した直後のキューバを訪問。農業協同の実情を視察してレポートにまとめられ、テレビ報道では見えない現地での実情を報告していただきました。

遠い空の下の故郷 —ハンセン病療養所に生きて—

北アルプスの山々がせまる美しい町、長野県大町市で「遠い空の下の故郷」の101回目の公演が行われました。

7月13日(木)朝10時から、長野県大町市の仁科台中学校体育館を会場にした「平成29年度人權を考える市民の集い」です。大町市では毎年6つの地区で人權の集いをやっています。これは大町地区での集いです。仁科台中学校の生徒さんと先生、そして地域の方々も40人ほど参加してくださいまして、全部で469人でした。

はじめに仁科台中学校3年の平林遥さんの『大切にしたい「仁中のいじめ追放宣言』』という意見発表がありました。そして市長の挨拶に続いて「遠い空の下の故郷」をはじめます。今回のアコーディオンは今村純二さんです。広い体育館なので心配でしたが、生徒さん達はじっと食い入るように見つめながら聞いてくれました。大人と一緒に市民の集いに参加することは貴重な社会経験だったようです。



左から今村純二、木下美智子、手話通訳者。

公演の翌日、主催の教育委員会から地域の方のアンケートが届きました。「とにかく、大きな衝撃と感動をうけました。人權は、このような形でしか伝わらないのだと思います。」などたくさん励ましをいただきました。

(木下美智子)

昭和世代と共に生きて

今村純二



わたしたち夫婦の松本市での暮らしも18年になりました。今村ひで子は介護福祉士の経験を通して「認知症を知る」ため、人形を使つての講座をするようになり、私は地域の町内会で、敬老会などに招かれてアコーディオンで歌を楽しんでいただく出演を経験したりしているうちに、最近では二人で1時間半の出演を受けるようになっていきます。

こちらも観客も、お互い立派な後期高齢者です。ですから、もう観客ではなく仲間であり隣人なので、ずいぶん気軽に、楽しみながら演じることができると不思議な体験をしています。第1部は私が受け持ち、なつかしい昭和の歌をみんなで歌います。昭和歌謡は歌詞さえあれば誰でも歌えるのがすばらしいところです。歌うだけではなく、思い切り笑っていただくこと「シルバー川柳」を紹介しします。



東京の劇団の俳優と見られていたが、地区の公民館長もつとめ、いつの間にか地域ではすっかり顔見知りになった。



人形を通して話しかけると、かなり言いにくい意見も、「ホウ、そうかね。やってみるわ、ハハハ」と笑いの場。



現代座会館に隣接した高齢者施設のみなさんも大喝采。

「やぶ医者め みんな老化でかたづけろ」など、一瞬で共感と笑いが生まれます。大声で歌うことや笑うことはきつと認知症予防には必ずです。

第2部はひで子の人形の出演です。じじとはばの2体の人形を使い分けながら、認知症の方の行動には必ず目的があることや、心に沿った対応が必要なことを知っていたために、地域の訛りで語ります。みなさん、人形を通して語りかけると、なぜか心を開いてくれるのです。

4月24日(月)、「武蔵野の歌が聞こえる」の稽古のため小金井に滞在していました。機会があれば、稽古場のお隣に出来た高齢者施設「ピース・ガーデン」のみなさんに聞いてもらいたいと思っていましたので、私一人でしたが、50分ほど時間をいただき、歌とお笑いをやってみました。職員の方も含めて大笑いで喜んでくれました。

私がこの年でもできることは、「歌と笑い」です。最近、笑いは体の健康のためだけでなく、人と人との絆を強くすることに気づきました。認知症予防のためと言わないまでも、元気なうちはみんなと楽しい時間を過ごし、互いに励まし合えるような場をつくれたら、「いい老後」かな、などと思つていられるのです。

♪草笛を吹こう♪

葉っぱが歌う親子で楽しむ草笛コンサート

6月18日(日)午前10時半から、現代座3F小ホールで「草笛コンサート」が行われました。これを企画したのは、現代座の「武蔵野の歌が聞こえる」の合唱曲を作曲した福沢達郎さんです。

福沢さんはずっと青山の「こどもの城」で子供のための音楽活動が続けてきました。ここでは、身近な楽器を通して子どもたちに音楽に興味を持ってもらうと同時に、社会の中で人とふれあうことによって、その健やかな成長を見守っていくと、色々な取り組みが行われていました。「草笛コンサート」はその中のひとつで、25年以上続けられてきたプログラムです。

残念ながら「こどもの城」は一昨年2月、国の方針で閉館になりました。永年やり続けてきたプログラムを、できれば現代座の3F小ホールでできないだろうかと思案しながら相談があり、NPO現代座は会場を提供して、地域の子どもたちに呼びかけることになりました。いつ



永年、こどもの城で草笛を吹いてきた萩原敏子さん、田中双葉さん、加藤イノさん。みんな目を丸くして見つめている。



「草笛は誰でも吹けるんだよ。ほら、葉っぱを丸めてごらん」。大人も子どもも草笛を作って、吹いてみる。「あっ、鳴った」



司会者の飯田さん(左)とピアニストの福沢さん(右)は、打楽器を打ち鳴らしながらのダンスまで披露。子どもたちは大喜び。福沢さんにこんな一面があったとは。

も現代座スタッフとして手伝ってくれている地域のお母さん、柳沢友季子さんが子供会に呼びかけてくれました。

こどもの城で司会や民族音楽をやってきた飯田茂樹さんの司会で、草笛チームの田中さん、萩原さん、加藤さんが素敵な草笛の音色を聞かせてくれました。草の葉だけでなく、お菓子の袋やスモモ、なんと折りたたみ傘でも笛になるのに、子供たちはびっくり!

興味が高まったところで実際に草笛を作ってみる「体験コーナー」では大人もみんな夢中になって作り「音が出た!」と大興奮。福沢さんのピアノにあわせていつせいに「ブー、ブー」とカ一杯吹きます。

3人のきれいな草笛演奏が終わってからも、出演者を囲んで笛の鳴らし方を教わったり、福沢さんが持つて来た様々な楽器で遊んだり、子供も大人も心から楽しんでいました。今回ははじめての試みで22人の参加者でしたが、これをスタートに「こどもの城」の色々な音楽プログラムを現代座でやっていけるといいな、と実感したコンサートでした。

よみがえる『星と波と風と』



高橋聖子、梅津敏英夫妻(元現代座員)は山口県光市で「光市民ミュージカルの会」に携わっています。今年「光市民ミュージカル2017『星と波と風と』」を上演すると伝えてきました。この作品は88年に木村快がミクロネシア州大酋長(当時の公職名)、ヤップ島のケニメデ氏の協力を受けて制作したもので、日本の途上国への経済支援が現地の人々にどう受けとめられているのかを描いた作品です。30年前の日本人とミクロネシア人を描いた作品がどのよ



高橋 聖子
うな形でよみがえるのか期待しています。
内容は80年代、経済成長に浮かれた若者たちがミクロネシア旅行に出かけて船を乗り間違え、

かつて日本の植民地だった島に上陸します。そこには「日本の経済支援の道路は地域社会を分断する」と反対する村がありました。若者たちは事情を知らずにその村へ勝手に入り込み、拘束されます。けれど、若者たちは村の人々から戦争の悲惨さと地域の暮らしの大切さを学び、村人と友達になります。

85年に統一劇場が3劇団に分かれ、家族持ちの多い現代座グループの活動が困難になったとき、入団したての新人で編成した『星と波と風と』が高い評価を受け、4年間で236回の公演を重ね、新しい現代座を定着させた作品です。

ところが太平洋を航海するヨットから、元劇団員・武本匡弘が作品のモデルの島、ヤップ島のその後の変貌ぶりを伝えてきました。ケニメデ酋長没後、ついに日本の経済支援道路が開通し、残念ながらその村は分断されたとのこと。

現代座会館の近況

現代座会館2F「講座室」

「早稲田ラジオスクール」は名称を変更 「教育文化経営学院」となりました

2012年以来、講座室で教育支援活動を行っている「早稲田ラジオスクール」はこのたび、「教育文化経営学院」と名称を変更することになりましたのでお知らせします。早稲田ラジオスクールはもとも早稲田大学の中に連絡所を置く、通信制大学在籍者を支援する組織として設立されました。通信制大学の難点は勉強条件が孤立しているため、学習計画や意欲の持続など学力以前の課題が多く、そうした困難な部分を支援するのが早稲田ラジオスクールの役割でした。名称の変更を機に、さらに受講者同士の連帯を強め、自立した学習の場として確立したいと思っております。

「学問による人間形成」を目指して

教育文化経営学院 西江啓介



教育文化経営学院では「学院による人間形成」を目指しています。知性と感性は、生きていく支えとなるものです。どちらも大切なものです。この知性と感性を、別のものと考えてしまうことはないでしょうか。「勉強はできるけれども心が育っていない」ということがあるとすれば、その「できる」という勉強の質が低いのだと思います。豊かな心、感性を持った人に育てない勉強は、真の勉強ではありません。教育文化経営学院では、このような生きていく支えとなる知性と感性を、統合的に育てることを目指しています。

教育文化経営学院では、人文・社会諸科学を学びます。



ば、一人でもどこでも学んでいくことができます。そのような「学び方を学ぶ」ことも教育文化経営学院では重視しています。

教育文化経営学院では、具体的には、通信制大学の学習支援、保育士資格・教員免許（幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校）の取得支援、採用試験対策、大学編入学・大学院入試対策、語学講座（英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、ラテン語、古典ギリシア語等）、学術講座（文献講読、学術論文の執筆支援）、高校を卒業されていない方の学習支援、体験学習・芸術活動を行っています。

資格取得や試験対策は、ともすると効率を求めたハウツーに特化したものになりがちです。資格を取得したり試験に合格したりすることは、当然必要なことです。けれどもそれにとどまらず、教師になって何をするのか、どんな教師になるのか、どんな実践を重ねていくのか。その学んだ内容をどう社会に還元していくのか、人生を豊かにしていくことにつながるのか。身につけた力で何をするかを、学生一人ひとりと、一緒

に考えていきたいと思えます。

教育文化経営学院の「体験学習・芸術活動」の一環で、先日、映画の上映会を行いました。沖縄・高江のドキュメンタリー映画を上演しました。沖縄から離れた東京にいて、入ってくる沖縄の情報が非常に少ないことを痛感します。辺野古や高江で何が起きているのか、ほとんど知らない、というのが現実です。

まずは一人でも多くの方に、沖縄の現実を知ってほしいと思えました。ご覧いただいた方から「その後どうなっているのかもっと知りたい」というような感想をいただき、嬉しく思いました。

その後の高江や沖縄を描いた作品が他にもあります。今後上映会を企画していきたいと考えています。皆さんのお越しをお待ちしております！ 今後ともどうぞよろしくお願い致します。

◆アリアンサ派遣教員・北沢瑞樹さん（27歳）



「木村快さんに是非お目にかかりたい」と訪ねて来たのは、ブラジルの第1アリアンサ移住地に派遣される北沢瑞樹さん。初めてのブラジルなので、ホームペー

ジの「ありあんさ通信」と木村快の「共生の大地・アリアンサ」を読んで、自分のこれから働く場所の事を勉強したのだという。
長野県は田中知事の時代、信濃海外協会が設立したアリアンサ移住地への派遣教員を制度化したが、知事が代わったら廃止されたと聞いて、さもあらんと諦めていたところだった。そこへ若い人が自ら志願して行くのだと聞いてうれしかった。しかもこの人は偶然、長野県飯田市の小学校教師だったという。アリアンサは多文化共生の先進的移住地だ。ぜひかけ橋になってほしい。向こうへ着いたら皆さん

よろしく言ってください。

現代座会館3F 「小さなNPO劇場」

現代座会館の地下ホールと3階小ホールでは、いろいろな創造集団が稽古や公演をしています。その中で、NPO現代座と協力して現代座会館の運営をいっしょに考えてくれたり、地域に役に立つ企画をしようと動き始めているグループがいくつか生まれています。

◆小金井に映画館をつくらう



『祝の島』や『ある精肉店のはなし』の監督として注目を集めている瀧藤(はなぶさ)あやさんや映画配給会社の水由章さんが「小金井に映画館をつくらう」という企画をすすめています。映画を心の文化として定期的に上演するのです。まず第1弾として8月6日に大阪在住の重江良樹監督・撮影の『さと(里)にきたらええやん』の上映が決まりました。

日雇い労働者の街と呼ばれる大阪市西成区釜ヶ崎に3年にわたって取り組みを続けている「こどもの里」があります。

ここは障がいの有無や国籍の違いに関わらず、0歳から20歳までの子どもが無料で利用することができます。学校帰りに遊びに来る子、一時的に宿泊する子、様々な事情から親元から離れている子……。そして親や大人たちも休息できる場所として、それぞれの家庭の事情に寄り添いながら、在り続けています。

(上演日の詳細は8ページにあります)

◆りんどうの会

江戸川乱歩作『心理テスト』

りんどうの会は毎年、杉山龍の企画演出で音楽と朗読を組み合わせた舞台作品を上演しています。これまで有島武郎の短編集『一房の葡萄』や、トルストイ作『人は何で生きるか』を上演してきましたが、今年はちよつと毛色を変えて江戸川乱歩に挑むと言っています。8月10・11日の上演を目指して稽古に汗を流しています。

現代座会館・地下ホール

◆スタジオ・ポラーノ

童話劇 どんぐりと山猫 (宮沢賢治・作)



スタジオ・ポラーノは宮沢賢治作品の上演に力を入れている児童劇団です。責任者の八木澤賢は『武蔵野の歌が聞こえる』にも俳優として出演しています。

『どんぐりと山猫』は一郎少年が「めんどろなさいばんをするので来てほしい」という山猫からの招待状を受け取り、山奥の森へ出かける話。

どんぐりたちが「俺が一番偉い」、「いや、偉いのは俺だ」と何日もお互いに争っており、まとまりがつかない。そこで山猫裁判長は一郎に助けを求めたのだが、一郎の助言は果たして役に立ったのかどうか……。自然や動物を対象としながら、宮沢賢治独特の優しさ、おかしさ、喜びの歌が聞こえてきます。7月29日に上演されました。

現代座会館 5月〜7月 活動日誌

- 5月16日 快塾・キューバ訪問報告
- 18日 「緑町ふれあいサロン」
- 6月5日 東京学芸大学放課後児童クラブスタッフ来訪
- 15日 「緑町ふれあいサロン」
- 18日 ブラジル・アリアンサ派遣教員北沢瑞樹さん来訪
- 19日 東京学芸大学放課後児童クラブスタッフと打合せ
- 24日 「同胞」上映の集い
- 27日 「川崎平右衛門顕彰会・研究会」事務局会議
- 7月19日 現代座創造グループ会議
- 20日 「緑町ふれあいサロン」
- 20日 東京学芸大学放課後児童クラブ・プログラム開始
- 21日 森武麿先生来訪

【現代座ホール】

- 5月5日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 7〜17日 「武蔵野の歌が聞こえる」稽古
- 24〜28日 劇団希望舞台「焼け跡から」稽古
- 7月2日・7〜9日 劇団「山猫堂」稽古・公演
- 17〜25日 「ミュージカルカンパニーふるきやら」稽古
- 28・29日 スタジオ・ポラーノ稽古・公演

【三階小ホール】

- 5月17日 6月1日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 5月17日 30日 草笛コンサート
- 6月18日 飯村先生「夢風船」練習
- 21日 23・25・30 7月2日 教育文化経営学院・映画上映会
- 24日 ヲカ教室「俳優のためのワークショップ」
- 7月7日 合唱団「コールムーン」練習
- 16日 津田リトルコンサート
- 22・23日 スタジオ・ポラーノ稽古
- 毎火曜日 杉山「りんどうの会」稽古
- 隔水曜日 朗読教室
- 毎火曜日 ヲカ教室

【定期使用 二階サロン】

- 毎日曜日 教育文化経営学院(学生支援)
- 毎月曜日 子どもクラブ・バンビーノ
- 毎水曜日 熟年パソコンサナール
- 隔木曜日 pop 熟年講座

お 知 ら せ

TEL 042-381-5165
FAX 042-381-6987

「小金井に映画館をつくろう」プロジェクト第1弾

監督・撮影：重江良樹 音楽：SHINGO ★西成
さとにきたら ええやん (7ページ参照)料金：当日 1200円 前売り 1000円
高校生以下 500円 小学生以下無料
日時：8月6日(日) 11:00 14:30 18:00
場所：現代座会館3F【小さなNPO劇場】りんどうの会 杉山龍の企画演出
江戸川乱歩作 『心理テスト』料金：2000円
日時：8月10日(木) 19:30
11日(金) 13:00 16:30
場所：現代座会館3F【小さなNPO劇場】

初心者向け ヨガ教室

どなたでも、いつからでも、始められるヨガです♪
完璧なポーズを作ることよりも、
まず自分の身体を知ること、
気づくことを大切にします。
他者と比べない、
ありのままの自分を味わう時間を過ごしませんか？

毎週火曜日 現代座会館 3F

10:15～11:15 (60分) 初心者クラス 1000円
11:45～12:55 (70分) 女性のための骨盤ヨガ 1500円
14:00～15:00 (60分) 椅子に座ってできるヨガ 1000円
講師：志野(しの)
メール：info@yoga-lifemaker.com
WEBサイト：http://yoga-lifemaker.com

NPO 現代座

誰でもできる朗読教室

* 4期生発表会 *

日時：2017年9月27日(水) 13:30 開演
会場：現代座3階小ホール(入場無料)

第5期 受講者募集!

基礎訓練から舞台発表まで(12回講座)

開講期間 2017年11月～2018年4月(6ヶ月間)

日時 毎月第2・第4水曜日(原則)
Aクラス 午後1:30～4:00
Bクラス 午後6:00～8:30
(人数によって終了時間変更あり)全12回、最終月の4月は
舞台稽古と発表会本番になります講師 長谷川葉月
募集定員 各クラス8名
受講料 18000円(全12回、発表会費用も含む)◆近代から現代の文学作品などをテキストにした、初心者向けの講座です。
朗読に大切な発声の技法と口をきれいに動かすための基礎訓練を取り入れ、朗読に適した声作りをしていきます。
まずはテキストを全員で読み分けして作品を読む楽しさを味わいましょう。
3月には各自が発表作品を練習し4月にその成果を舞台上で発表しましょう。舞台朗読の実践までを丁寧にお教えします。お申し込みはNPO現代座まで。

NPO現代座の会員になってください

- 年間4回発行の活動レポートをお送りします。
- 会員による企画行事をお知らせします。
- お申し出があれば、上演舞台の録画DVDをお送りします。

★年会費(現代座レポート購読料を含む)

一般会員	3,000円
協賛会員	10,000円(1口以上)

 郵便振替口座番号 00110-7-703151 NPO現代座